

WiSP部会
宮島 奈美

WiSP部の部屋

(女子部の部屋 改題)

明けましておめでとうございます。
昨年ようやく新型コロナウイルスが5類移行となって外出の制限が解除され、この年末年始は数年ぶりにリアルでの会合が増えて、楽しくも忙しく過ごされた方が多かったのではないのでしょうか。

さて、この度はご縁があって、コラムを執筆しておりますが、実は私、まだホームインスペクターとしての活動はできていない、車の運転でいえばペーパードライバーのような状況です。ただ、そういった境遇にある会員の方々が、実は想像以上に多いという話を耳にしました。おそらく、私のような境遇にある方々が割と多くいらっしゃるのかな?という印象です。そこで、今回はこれまでの執筆者の方々のような、カッコいい内容ではなく、現状の悩みや、今後どうしていきたいか、といったことを書かせていただこうと思います。

事の発端は、勤務先の不動産会社でインスペクションの部署の担当者が退職することになり、その引継ぎでこういった仕事があるんだなと知ったのがきっかけでした。もちろん、宅建業法の改正で、建物状況調査(インスペクション)に関する説明が義務化されたのは知っていましたが、実際の業務に携わるまでは、その内容や必要性といった細かい内容までをあまり知らず、何か問題にぶち当たる度に、手探りで調べまくる日々…。

その流れで、建物状況調査とホームインスペクションは別物なんだ!ということに気づかされました。私は建築士資格が二級のため、「分譲マンションの建物状況調査を行うためには、一級を取得しないとならない」ということを知ったのは割と早い段階でしたが、業務上は中立性を保つという大原則から、自社の物件はそもそもインスペクションできないため、特に問題はありませんでした。

箔をつけるために既存建物状況調査技術者の資格は取ったものの、何かできるわけでもなく…。ただ、インスペクションの必要性や将来性を感じることは多く、もっと深く携われるようになりたい!と思うようになったところで、昨年ついにホームインスペクターの資格を取ることを決心。試験については、日々業務に携わっていることで培われた知識と、ちょうど一級建築士の学科試験の勉強をしていたのもあって、それほど苦労はなかったです。とはいえ、テストセンターで受験した時は、想像以上の難易度に泣きそうになりましたが(笑)。

その後無事合格して、そのまますぐに協会へ登録申請。ホームインスペクターと名乗ることができるようになりました。

ここまでは比較的順調でしたが、会員になったものの、いざホームインスペクターとして活動できるか?というところは全く別物でした。

勤務先には、資格取得のことは伝えたものの、業務とは直接関係ないため、本業では何もできず。かといって、副業とか、辞めて独立するとか、そこまでの時間もお金もない。さらには、道具も経験もない。なかなか次の一步を踏み出すことができないまま、2人目のこどもの妊娠・出産があったのもあり、あっという間に1年が過ぎてしまいました。

そんな中、トークセッションのイベントとあわせて関東エリア部会と女性部会の会合があるというメールをみて、これは行くしかない!と直感し、そのまま参加ポチ。少しドキドキしながら会場に向かいましたが、受付でちょうどWiSPの皆さんとお話することで、緊張がほぐれ一安心。その後のトークセッションでは、ホームインスペクターとして最前線で活躍されている方々の熱いトークや、業界やエリアの垣根を超え、現状やこれから先の未来に向けた広い視野の話を拝聴することができました。

そのなかで一番印象に残ったのは、まだまだ日本では少ない女性のホームインスペクターに対する期待の大きさでした。いや、正確には性別関係なく、需要に対して、しっかりと対応できるホームインスペクターはまだまだ少ないということ、そのためにも、協会としても制度や教育を今後の課題としているし、せっかく試験に合格して、活動できる私たちも自ら立ち上がって進んでいく勇気が必要だということに気づかされました。

結局、今回このコラムを書くまですっかり保留にしていた、まだホームインスペクターとしては活躍できていないのですが(汗)、WiSPのメンバーとして、やれることから積極的に取り組んでいき、2024年こそは「私はホームインスペクターです!」と胸を張って名乗れるようになりたいと思います。

同じような悩みを持たれている会員の皆さま、ぜひ一緒に頑張っていきましょう!!

NEXT ▶▶▶ No.7

妹尾 和江さん